

6月26日(金)交響曲

きのう しょうちゅうれんらくかい
昨日は小中連絡会がありました。扇
しょうがっこう そつぎょう こ は き
小学校を卒業した子が、張り切って
たの べんきょう すがた せんせい み
楽しく勉強している姿を、先生たちで見
い
に行ってきました。



こうない がっしょうさい し は みな
校内に、「合唱祭」という詩が貼ってあったで、皆さんに
しょうかい
紹介します。

うつく かくちょうたか こうきょうきよく
クラスは美しく 格調高い交響曲(シンフォニー)だ

ひとりひとは うまく こだま で
ひとりひとは うまく声が出なくても

ぜんたい こだま なか
クラス全体の声の中で

ひとりひとりの こだま ひび
ひとりひとりの声を 響かせあうから

ひとりでは おも
ひとりでは 思いがけないような

ひとりひとりの こだま ひ だ
ひとりひとりの声が 引き出され

ぜんたい す ば こうきょうきよく
全体が素晴らしい交響曲となるのだ

ぜんたい しつ たか
全体の質が高くなると それがまた

ひとりひとりにもどって

ひとりひとりを さらに たか うつく こだま
さらに高く美しい声にしていくのだ

むずか ことば で おうぎ こ みな
難しい言葉も出てきますが、ぜひ扇っ子の皆さんにも、こ
し い み かんが
の詩の意味を考えてもらいたいです。

村越 新